

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第1区分
 【発行日】令和4年2月14日(2022.2.14)

【公開番号】特開2021-68516(P2021-68516A)
 【公開日】令和3年4月30日(2021.4.30)
 【年通号数】公開・登録公報2021-020
 【出願番号】特願2019-190861(P2019-190861)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 1 3 / 6 2 9 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

H 0 1 R 1 3 / 6 2 9

【手続補正書】

【提出日】令和4年2月3日(2022.2.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0010】

本開示の構成によれば、第1レバーと第2レバーを初期位置から嵌合位置側へ回動させる過程では、操作部に付与した操作力が、連結部と第2レバーを介して第2軸に伝達されることによって、倍力機能が発揮される。この間、連結部が、ガイド部に沿って操作部側から第1軸側へ相対変位するので、操作部は、第2軸から遠ざかるように変位する。したがって、第2レバーを回動させるために必要な操作力が小さくて済む。第1レバーと第2レバーを長くする必要がないので、大型化することなく操作力を低減することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0025】

左右両第2アーム部25には、一对の駆動軸29が形成されている。第2レバー24の長さ方向において、駆動軸29は、第2レバー24の中央と第2軸27との間に配置されている。つまり、第2軸27から駆動軸29までの長さ寸法は、第2軸27から連結部28までの長さ寸法よりも短い。駆動軸29は、軸線を左右方向に向けて第2アーム部25の内面から突出した形態である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0039】

本実施例のレバー式コネクタFによれば、第1レバー18と第2レバー24を初期位置から嵌合位置側へ回動させる過程では、操作部20に付与した操作力が、連結部28と第2レバー24を介して第2軸27に伝達されることによって、倍力機能が発揮される。この間、連結部28が、ガイド部22に沿って操作部20側から第1軸14側へ相対変位するので、操作部20は、第2軸27から遠ざかるように変位する。したがって、第2レバー24を回動させるために必要な操作力が小さくて済む。第1レバー18と第2レバー24

50

を長くする必要がないので、大型化することなく操作力を低減することができる。

10

20

30

40

50